

<b>T P N水和剤</b> <b>ダコニールエース</b>	<b>取扱メーカー：</b> クミカ <sup>*</sup> 、住友化学 <sup>*</sup>  <b>原体メーカー：</b> エス・ディー・エス
<b>成分：</b> T P N〔有機塩素系 PRTR・1種〕……………53.0%	<b>性状：</b> 類白色水和性粘稠懸濁液体 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

### 【品目特性】……………

- ダコニール1000の項参照。
- ダコニール1000を改良した北海道の基幹作物専用剤。
- 有効成分量をダコニール1000の約1.5倍に増量（1ℓ当り720g）。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- ダコニール1000の項参照。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 使用前には容器をよく振ってから使用する。
- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- ホセチル剤と混用する場合は、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してから、ホセチル剤を加え調製する。
- ばれいしょに対して希釈倍数125倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。

### 【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 魚類に強い影響を及ぼすおそれがあるので、特に注意。
- 甲殻類、藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用方法】 .....

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	T P Nを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	1000 倍	育苗箱 (30 ×60×3cm, 使用土壌約 5 ℓ) 1箱当 り500ml	は種時	1 回	土壌灌注	2 回以内
小 麦	縞萎縮病	20～ 30 倍	80～ 100 ℓ	は種前		全面散布 後土壌混 和	1 回
きゅうり	べと病	1500 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	8 回以内	散布	10回以内 (土壌灌注は2回 以内, 散布及び常 温煙霧及びくん煙 及びエアゾル剤の 噴射は合計8回 以内)
ト マ ト	疫病 葉かび病				4 回以内		6 回以内 (土壌灌注は2回 以内, 散布及びく ん煙及びエアゾル 剤の噴射は合計4 回以内)
ミニトマト					2 回以内		2 回以内
す い か メ ロ ン	つる枯病			3 日前 まで	5 回以内		5 回以内
たまねぎ	べと病 黄斑病 灰色腐敗病	750 倍	100～ 400 ℓ	7 日前 まで	6 回以内		6 回以内
	灰色かび病	750～ 1500 倍					
てんさい	褐斑病	750～ 1000 倍		30 日前 まで	3 回以内		3 回以内
アスパラガス	茎枯病 斑点病	1500 倍	100～ 400 ℓ	前日まで	4 回以内		4 回以内
茶	炭疽病		200～ 400 ℓ	摘採10 日前まで	1 回	1 回	
にんじん	黒葉枯病	750～ 1500 倍	100～ 300 ℓ	7 日前 まで	5 回以内	5 回以内 (種子への吹き付け 処理は1回以内)	
	黒斑病	750 倍					
ばれいしょ	疫病	750～ 1500 倍				25 ℓ	5 回以内
	夏疫病	750～ 1500 倍					
	せんきゅう	べと病	1000 倍		100～ 300 ℓ	3 回以内	3 回以内
かぼちゃ	うどんこ病 黒斑病 つる枯病	1500 倍					